

天津豪商

露國の豪商

印度商

銀行

天津商人の中には、比較的豪商多く、同盛和(烏魯木齊、伊犁)文豐泰(伊犁、塔爾巴哈臺)永裕(烏魯木齊、喀什)等は有名なるも、僅に二三十萬金の資本を有するに過ぎずと。

露商人には、大なる者少からず。其の最も有名なるは、伊犁のウエーレバエにして、新疆中第一等と稱せらる(元と伊犁の勳章を與へ、清帝は紅頂子を贈る)。彼は伊犁に於ける露清官衙の用達商人なり。露商の大部分は、卸商即ち問屋にて、纏頭回民の大部分は小賣商とす。露商の開店するは、伊犁、塔爾巴哈台に多く、烏魯木齊之に次ぐ、但し北路には「バザール」即ち市の開始なきが爲め已むを得ず。土着開店するなり。南路は、商人、旅店(外國商人の爲め特設せる)に寓し、盛んに卸賣をなす。印度商は南路に多きも、放資即ち金貸を正業とし、物貨の賣買は副業たるの觀あり。故に新疆には金を印度人に借り、露貨を購ふて商賣する纏頭回民少なからず。

商況斯の如きが故に、銀行至て少なく、烏魯木齊、伊犁、塔爾巴哈台、喀什噶爾には、露清銀行(清人は道勝銀行と稱す)の各支店あり。其他清人の設立に係るは、唯、烏魯木齊に、天成號京記號あるのみ。然れども天津商或は纏頭商の中、名ある者は、一般の信用厚く、且つ有名の都會には、大抵支店を有するが故に、爲替金を託送すること等は容易なり